# 栗山町における地域公共交通活性化・再生総合事業（計画事業2年目）

## 栗山町地域公共交通総合連携計画の目標

・町民とともに歩む交通運営システム
・町民が安心して暮らせる交通システム
・シルバー社会に対する交通スステム
・地域社会と連携した交通システム
・他の交通機関と連携した交通システム

## 栗山町地域公共交通活性化協議会開催状況

平成22年6月8日　平成22年度第1回協議会開催
　(1)平成21年度事業報告について
　(2)平成21年度収支決算について
　(3)平成22年度事業計画について
　(4)平成22年度収支予算について

## 平成22年度総合事業計画の概要

○利用促進・調査研究
○バス待合所機能導入等の実証
○バス停留所の見直し・整備

**実証運行中（単独費）のデマンドバス（滝下線）**

**バス待合所**

**バス停留所標識整備（日赤病院前）**

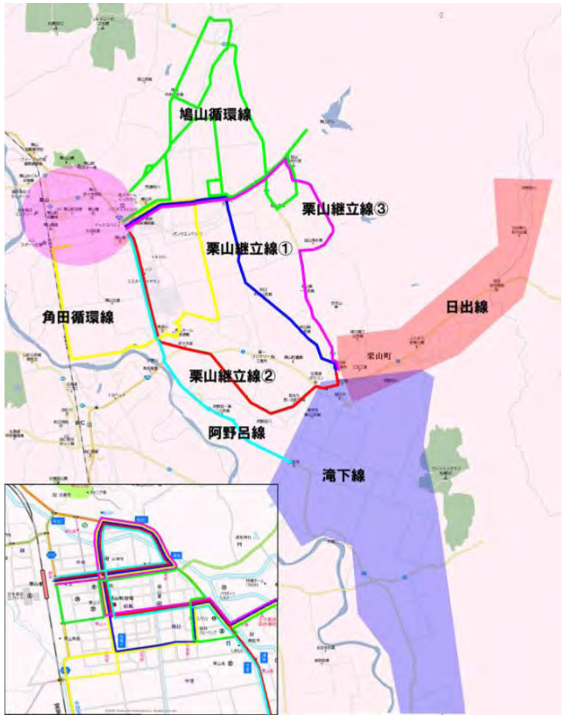
## 22年度事業の実施状況

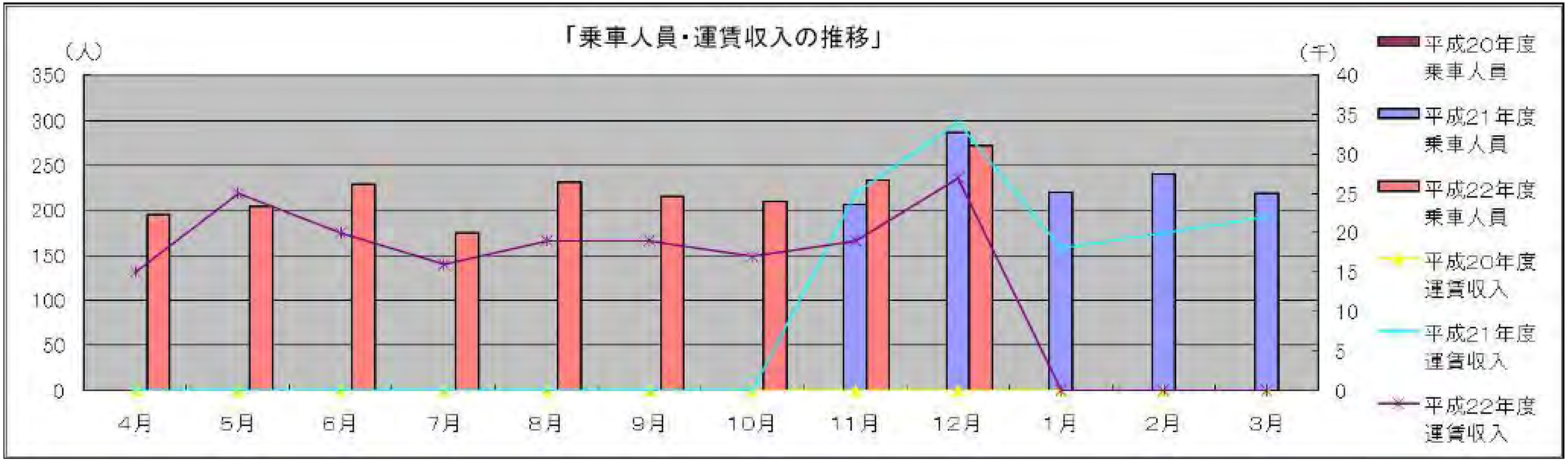
＜利用促進・調査研究＞
　単独費によるデマンドバス実証運行を継続し、利用促進や更なる改善点の調査研究を実施した。
　○滝下線及び日出線のデマンド運行に係る課題として、乗継による不便の解消、バスの小型化等による更なる効率性について調査研究を実施。
　○カードシステムによる運賃前払制度の調査研究を実施。

＜バス待合所機能導入等の実証＞
　商店街等の既存施設によるバス待合所の継続的設置による地域のバス運行への理解と利用者の利便性向上に努めた。
○まちの駅栗夢プラザ及び南部公民館への待合所の継続設置による常設化を図った。

＜バス停留所の見直し・整備＞
　バス停留所標識の整備により、利用者の利便性と継続的運行にかかる整備を図った。
○町営バス路線のバス停留所標識35基の整備を図った。

## 運行ルート図



## 事業実施効果

＜利用促進・調査研究＞
　デマンドバス運行等にかかる適正な運行体系などについて、引き続き調査研究を実施し、今後の継続的、安定的な本格運行(運営）に向けた調査、検証が行われた。

＜バス待合所機能導入等の実証＞
　商店街等の既存施設によるバス待合所の継続的設置による地域のバス運行への理解と利用者の利便性向上が図られた。

＜バス停留所の見直し・整備＞
　バス停留所標識の整備により、利用者のサービス向上とバス運行の継続的運行にかかる整備が図られた。

## 今後の課題

○デマンドバス運行の本格運行に向け、更なる効率性と利便性の向上を図る必要がある。
特に、バスの小型化については、ワゴンタイプへの移行も視野に入れた見直しも必要であることから、老朽化した現有バスの買換え時期なども考慮した中で検討しなければならない。また、車輌の見直しに併せ、効率的運行及び利用者の利便性の観点から運行主体及び運営主体についても検討が必要であり、関係者との調整が課題となっている。

## 自己評価のポイント

・本格運行に向けた調査、検証を行うとともに、バス停留所標識の整備により利用者のサービス向上が図られ、適切な事業と評価する。
・町内連合会における予約センター業務や商店街のバス待合い所などの協力等住民理解は熟している。

## 二次評価のポイント

・自己評価のとおり。
・本格運行に向けた運行計画の検討を行う等、地域のニーズを踏まえた最終年度の取り組みに期待する。